



春・夏の天候の見通し

3か月予報（春：3～5月）
暖候期予報（夏：6～8月）

福岡管区気象台 気象防災部予報課
（令和8年2月24日14時発表）

since 1875



春～夏の予報のポイントと留意点

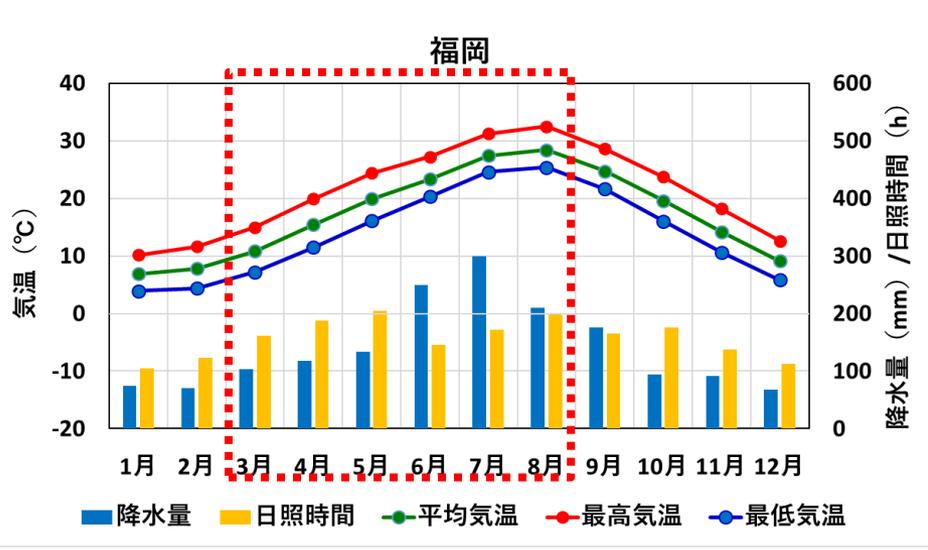
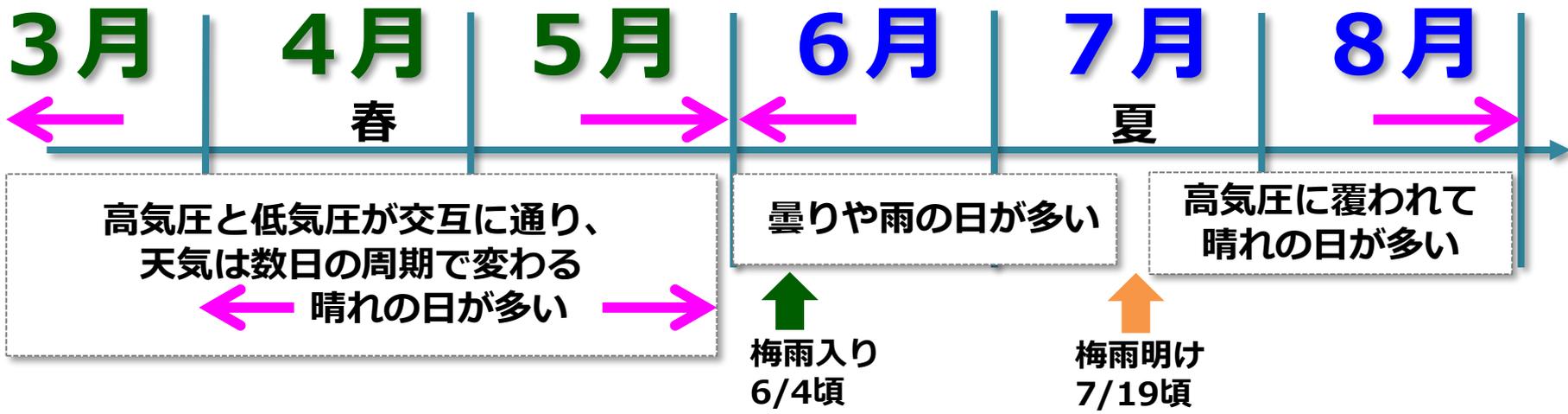
予報のポイント

- 春・夏の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**高い**でしょう。

留意していただきたいこと

- 春**
- **降水量**は**ほぼ平年並**を見込むが、**春の前半**は、**南西からの湿った空気が流れ込みにくい**ため、**低気圧の影響を受けにくく**、**これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性**がある。昨年10月中旬から記録的な少雨となっているため、**水資源管理に注意、林野火災の防止**を。
- 夏**
- **大気全体の温度が高い**ことに加え、**太平洋高気圧の本州付近への張り出しがやや強い**ため**高温**の予想、**暑さへの備えを早めに**。
 - 夏や梅雨の**降水量はほぼ平年並**の予報だが、**南からの湿った空気が流れ込みやすい時期**があり、**梅雨前線の活動が活発となる時期**がある。**出水期を迎える前に、大雨に対する心構え**を。

春～夏の九州北部地方の平年の天候経過



気象要素の月ごとの季節変化

春から夏への季節進行とともに
気温上昇、降水量増加

年降水量の約1/3が
6～7月（梅雨期間）に降る

年降水量平年値（福岡）：1686.9mm
梅雨期間（6～7月）
降水量平年値（福岡）：548.7mm

春（3～5月）の天候の見通し

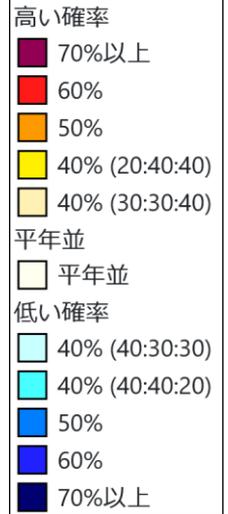
春（3～5月）の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	平均気温（3か月） 3 ～ 5 月	降水量（3か月） 3 ～ 5 月
	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	少 40 並 30 多 30 ほぼ平年並 の見込み
数値は予想される 出現確率です	<ul style="list-style-type: none"> 高い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 平年並 低い確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 多い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 平年並 少ない確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上

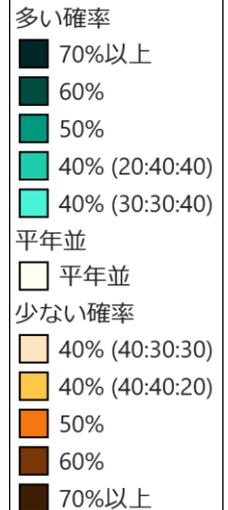
春（3～5月）の天候の見通し（月別）

	3月	4月	5月
天候	天気は数日の周期で変わ りでしょう。	天気は数日の周期で変わ り、平年と同様に晴れの日が 多いでしょう。	天気は数日の周期で変わ り、平年と同様に晴れの日が 多いでしょう。
気温	低 20 並 40 高 40 平年並 か 高い 見込み	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	低 20 並 30 高 50 高い 見込み
気温 			
降水量	少 40 並 30 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み
降水量 			

気温



降水量



3月の降水量 30:40:30→40:30:30 少雨側に変更（低気圧の影響をやや受けにくい予想に変わったため）

夏（6～8月）の予報（暖候期予報）

夏（6～8月）の予想される天候

- 6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

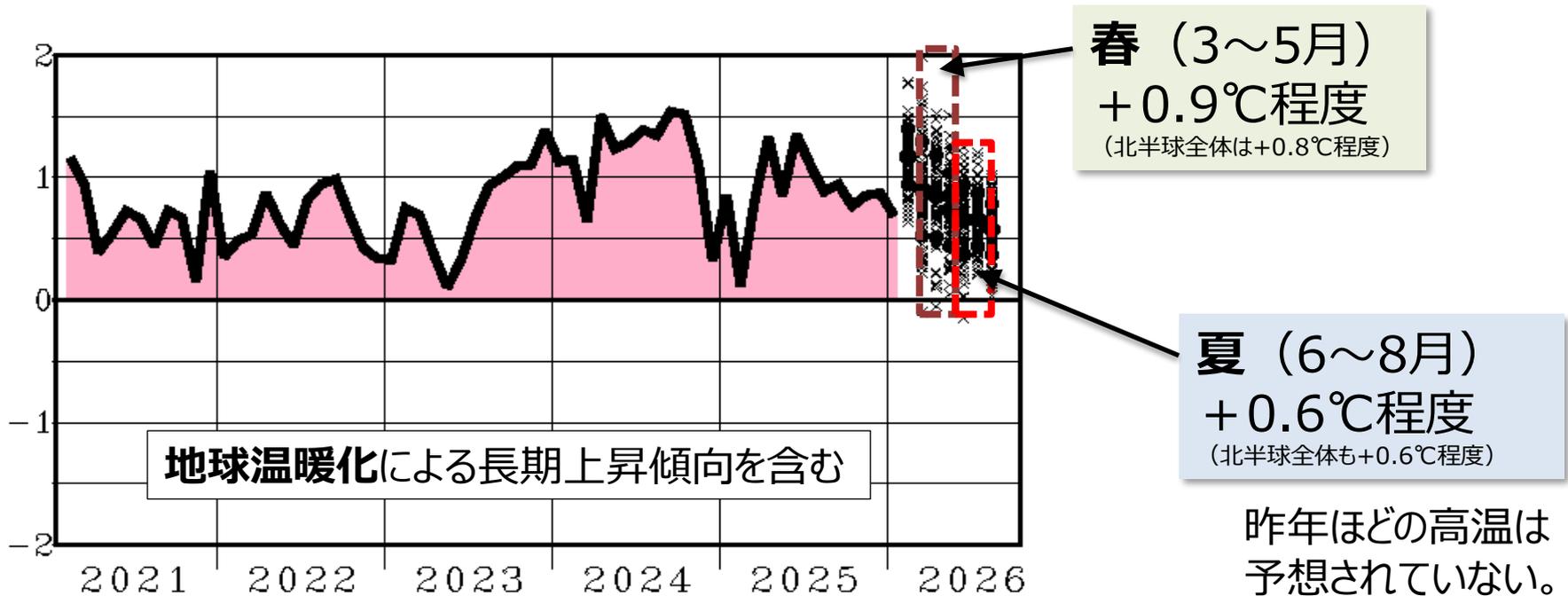
※5月までの天候の見通しは、最新の3か月予報等をご覧ください。

夏（6～8月）の平均気温・降水量、梅雨の時期の降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	平均気温 夏（6～8月）	降水量 夏（6～8月）	降水量 梅雨の時期（6～7月）
	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並 の見込み
<p>数値は予想される 出現確率です</p>	<p>高い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) □ 平年並 低い確率 ■ 40% (40:30:30) ■ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上</p>	<p>多い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) □ 平年並 少ない確率 ■ 40% (40:30:30) ■ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上</p>	<p>多い確率 ■ 70%以上 ■ 60% ■ 50% ■ 40% (20:40:40) ■ 40% (30:30:40) □ 平年並 少ない確率 ■ 40% (40:30:30) ■ 40% (40:40:20) ■ 50% ■ 60% ■ 70%以上</p>

根拠① 大気全体の温度の実況および予測

北半球中緯度の大気の温度は高い状態が続く。

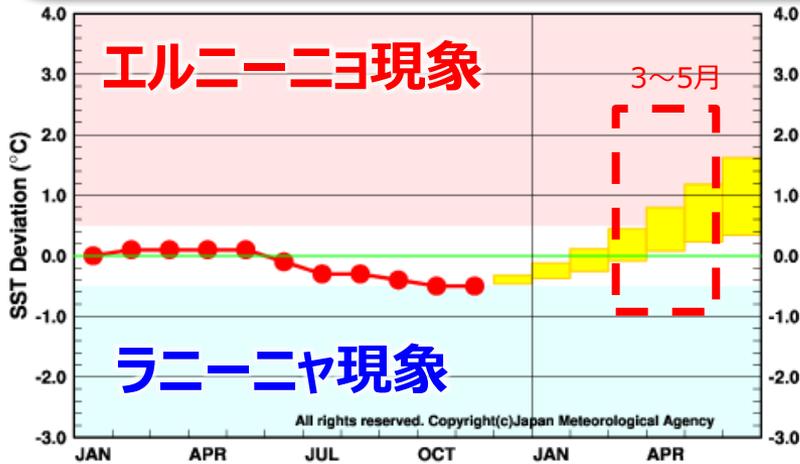


北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測
対流圏 (高さ約1,500~10,000m) の温度の平年差

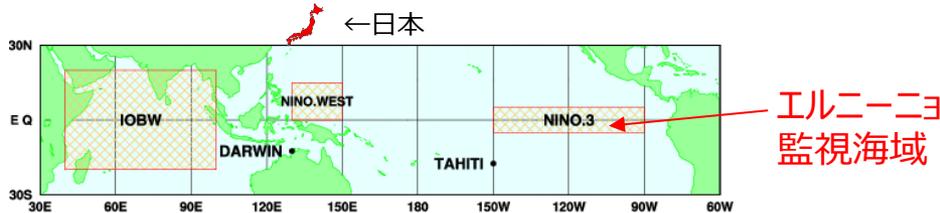
(平年：1991~2020年の30年平均)

根拠② 熱帯域の海面水温の予測

- ✓ エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない**平常の状態**と見られ、**ラニーニャ現象に近い状態は解消**に向かっている。
- ✓ 今後、春の間に**エルニーニョ現象**が発生する可能性と平常の状態が続く可能性が同程度（50%）となり、夏には平常の状態が続く可能性もある（40%）が、**エルニーニョ現象**が発生する可能性の方がより高くなる（60%）。

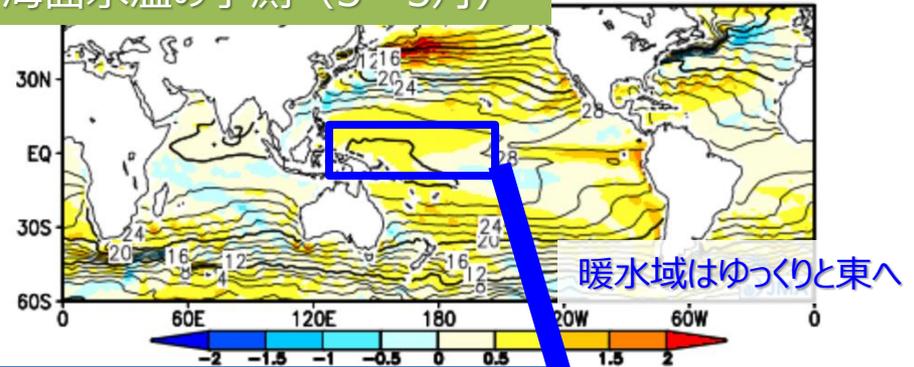


エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差

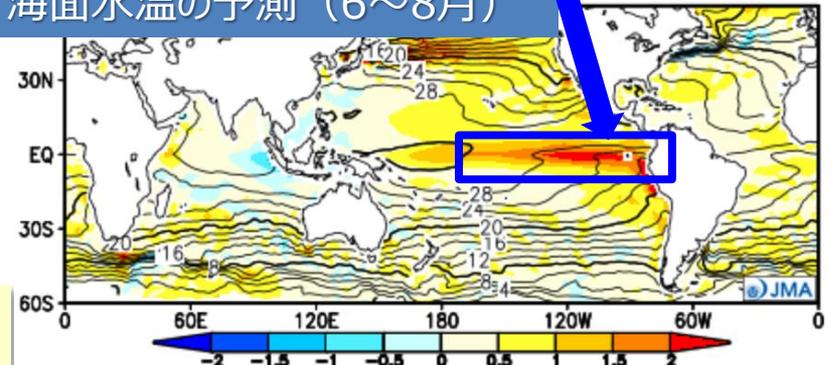


エルニーニョ監視速報 URL :
https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

海面水温の予測 (3~5月)



海面水温の予測 (6~8月)



春（3～5月）の予想される海洋と大気の特徴

全球で大気全体の温度が高い

（ ）は、ラニーニャ現象が終わる春のタイミングでみられやすい
（現状、ラニーニャ現象ではないが、ラニーニャ現象に近い海面水温分布であることを考慮）

上空の偏西風

日本付近では平年より北に偏って流れる

全国的に暖かい空気に覆われやすい

西日本太平洋側と沖縄・奄美では期間前半を中心に南西からの湿った空気が流れ込みにくい（低気圧や前線の影響を受けにくい）

平年の偏西風

積乱雲の発生が多い

海面水温が平年より低く、積乱雲の発生が少ない

海面水温が平年より高い

赤道

気温のポイント

高温予想

- ✓ 大気全体の温度が高い
- ✓ 上空の偏西風が平年よりもやや北を流れ、暖かい空気に覆われやすい（特に4月は暖かい空気に覆われやすく高温）

降水量のポイント

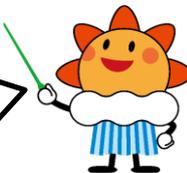
ほぼ平年並

- （春・3月は少ない確率が40%）
- ✓ 春の前半を中心に、南西の湿った空気が流れ込みにくく、低気圧の影響を受けにくい
（向こう1か月はこれまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性がある）

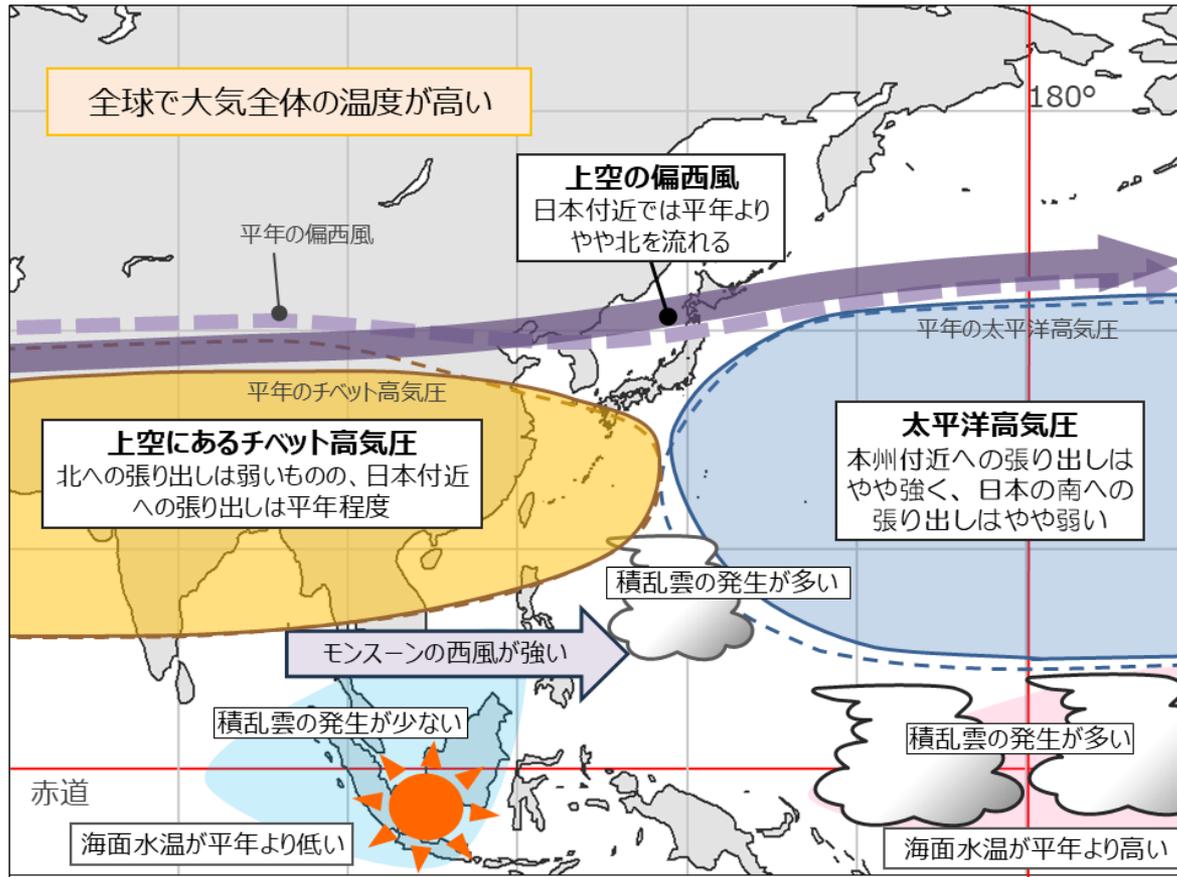
【熱帯域の海面水温と対流活動】

- ラニーニャ現象に近い状態は解消するが、太平洋熱帯域の西部では海面水温が高い状態が続く。
- 積乱雲の発生が、フィリピン付近～フィリピンの東で多い。

春の前半は、引き続き少雨に注意。
4月を中心に偏西風は平年より北を流れ、高温予想



夏（6～8月）の予想される海洋と大気の特徴



気温のポイント

高温予想

- ✓ 大気全体の温度が**高い**
- ✓ 上空の偏西風が平年よりもやや北を流れ、**暖かい空気に覆われやすい**
- ✓ 太平洋高気圧の本州付近への張り出しが**やや強い**

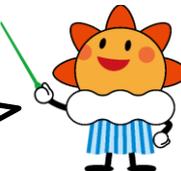
降水量のポイント

- 夏・梅雨期間ともほぼ**平年並**
(ただし、**多い**確率が**40%**)
- ✓ **南からの湿った空気が流れ込みやすい時期**がある
 - ✓ **梅雨期間は、梅雨前線の活動が活発となる時期**がある

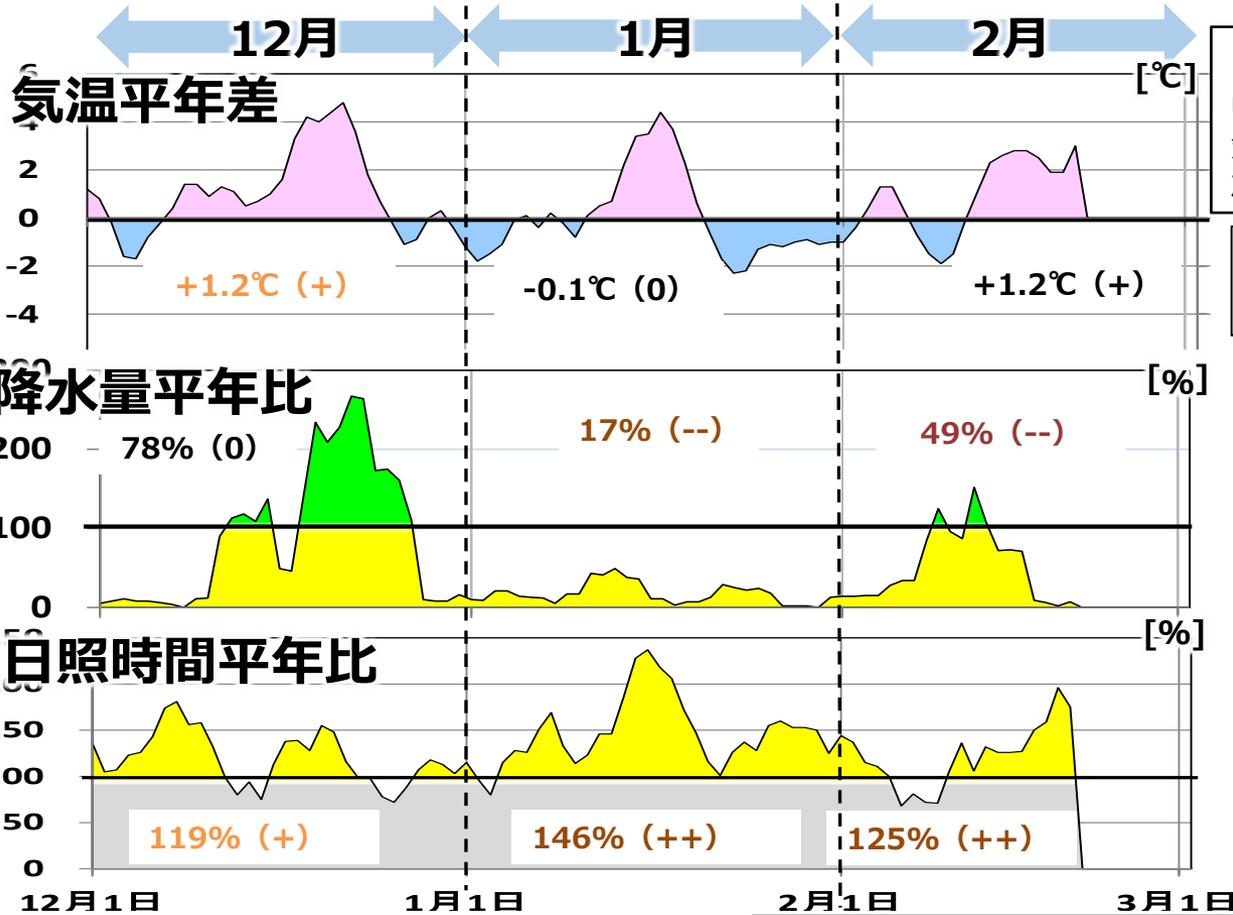
【熱帯域の海面水温と対流活動】

- 太平洋赤道域の東部から中部で高く、インド洋熱帯域の南東部で低い見込み。
- 積乱雲の発生は太平洋赤道域の日付変更線付近からフィリピンの東方海上で多い一方、インドネシア付近で少ない。

暑さに対する備えを！
大雨に対する備えも、
平年よりやや強く意識を！



九州北部地方の天候経過 (冬：12～2月)

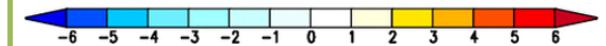
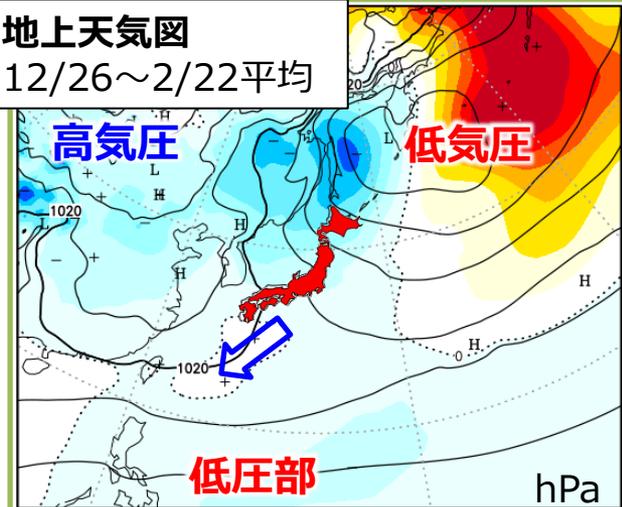


【2月の天候】

中旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温は平年を上回り、降水量は平年を下回ったほか、日照時間は平年を大きく上回った。

地上天気図

12/26～2/22平均



(少雨が顕著な12/26～2/22)

ラニーニャ現象に近い海面水温分布により、フィリピンの東海上では対流活動が活発となって平年より気圧が低かった。東シナ海～日本の南では、このエリアに向かって、北東の風が強くなったため、南岸低気圧が発生しにくい場となった。

階級区分値

- (++) : かなり高い/かなり多い
- (+) : 高い/多い
- (0) : 平年並
- (-) : 低い/少ない
- (--) : かなり低い/かなり少ない

数値は月平年差 (比) ・ 階級区分値

2月の値は22日までの暫定値

グラフは5日移動平均値でプロット

春・夏の見通しのまとめ

予報のポイント

- 春・夏の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**高い**でしょう。

留意していただきたいこと

- 春**
- **降水量**は**ほぼ平年並**を見込むが、**春の前半**は、**南西からの湿った空気が流れ込みにくい**ため、**低気圧の影響を受けにくく**、**これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性**がある。昨年10月中旬から記録的な少雨となっているため、**水資源管理に注意**、**林野火災の防止**を。
- 夏**
- **大気全体の温度が高い**ことに加え、**太平洋高気圧の本州付近への張り出しがやや強い**ため**高温**の予想、**暑さへの備えを早めに**。
 - 夏や梅雨の**降水量はほぼ平年並**の予報だが、**南からの湿った空気が流れ込みやすい時期**があり、**梅雨前線の活動が活発となる時期**がある。**出水期を迎える前に、大雨に対する心構え**を。



次回の3か月予報の発表は、**3月24日（火）14時**です。

季節予報に関するお問い合わせ先 **福岡管区気象台予報課（092-725-3604）**



1か月予報 (2/19発表)



歩み続けて150年
防ぐ災害・守る未来

予報のポイント

毎週木曜日14時30分発表

- ✓ 昨年10月中旬以降、低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性があります。
- ✓ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

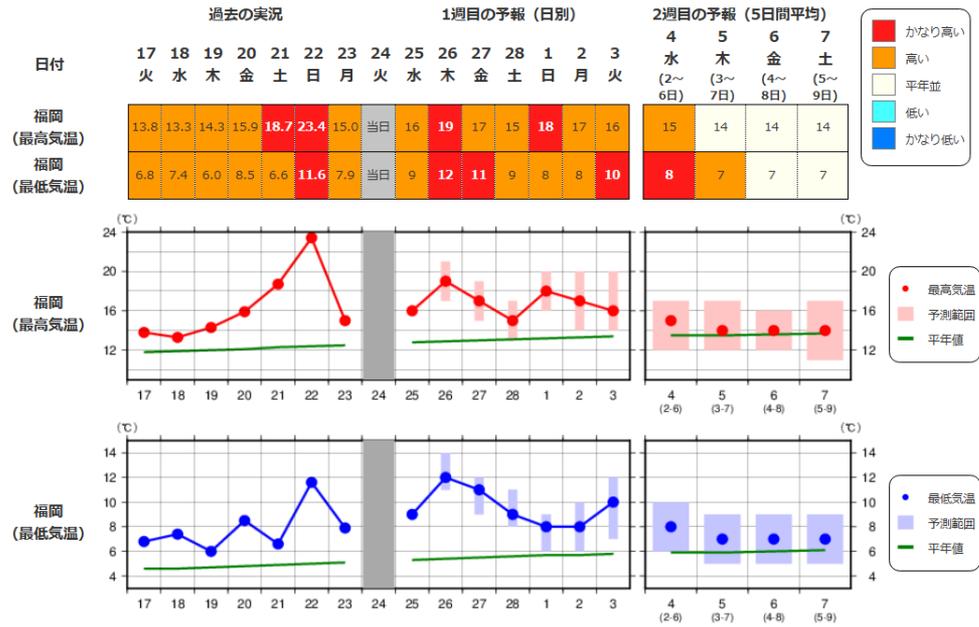
	平均気温 (向こう1か月)	降水量 (向こう1か月)	日照時間 (向こう1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低20 並30 高50% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温 (1か月)</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 以上 平年並も40%以上</p>	<p>降水量 (1か月)</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40%以上</p>	<p>日照時間 (1か月)</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40%以上</p>

2週間気温予報 (2/24 11時更新)

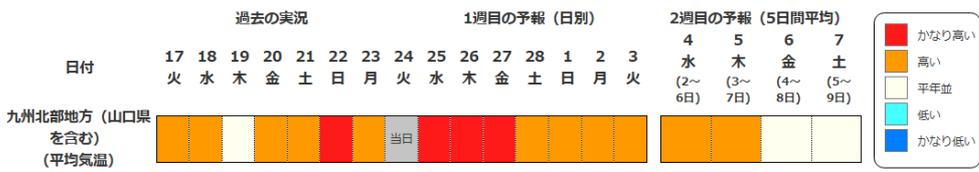
九州北部地方（山口県を含む）の気温は、向こう9日間程度は暖かい空気に覆われやすいため高く、かなり高い日もある見込みです。農作物の管理等に注意してください。その後は平年並でしょう。

2週間気温予報 (福岡)

毎日14時30分発表
5時/11時/17時更新

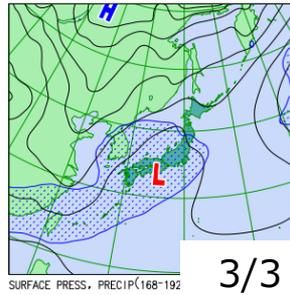
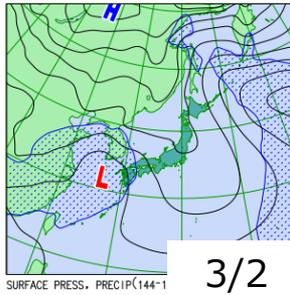
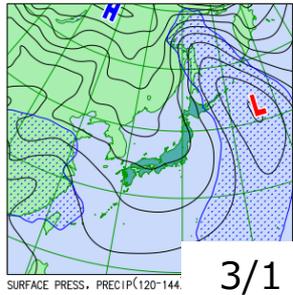
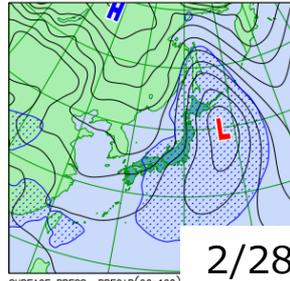
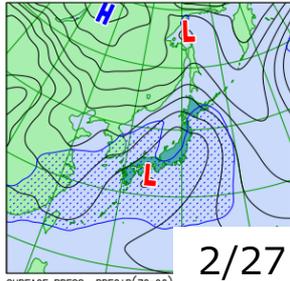
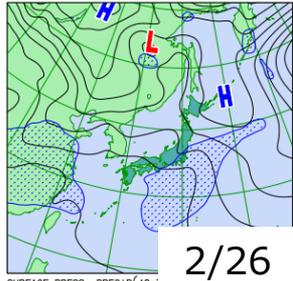


2週間気温予報 (九州北部地方)



週間天気予報 (2/24 11時発表)

予想天気図



L: 低気圧 H: 高気圧
陰影部: 24時間で5mm以上の予想降水域

向こう1週間の雨の見通し

低気圧や前線の影響で、曇りや雨の降る日が多いですが、3月1日頃は晴れるでしょう。

福岡の降水量は **多い** でしょう (平年並の範囲: 14 ~ 28 mm)。

週間天気予報 (福岡県)

福岡県の天気予報 (7日先まで)									
2026年02月24日11時 福岡管区気象台 発表									
日付	今日 24日(火)	明日 25日(水)	明後日 26日(木)	27日(金)	28日(土)	01日(日)	02日(月)	03日(火)	
福岡県	曇後雨 	雨後曇 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇 	晴時々曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	
降水確率(%)	-/90/90	90/80/30/10	20	70	40	20	50	60	
信頼度	-	-	-	A	B	A	C	B	
福岡 気温 (°C)	最高	13	16	19 (17~21)	17 (15~19)	15 (13~17)	18 (16~20)	17 (14~20)	16 (14~20)
	最低	-	9	12 (11~14)	11 (9~12)	9 (8~11)	8 (6~9)	8 (6~10)	10 (7~12)
				向こう一週間 (明日から7日先まで) の平年値					
				降水量の7日間合計		最低気温	最高気温		
福岡				平年並 14 - 28mm		5.6°C	13.1°C		

目先1週間は、低気圧や前線の影響を受けやすく、雨は、今日から明日(2月24~25日)、2月27日頃、3月2~3日頃に予想されている。

7日間降水量としては70~100ミリ前後と見込まれる(多い所では150ミリ前後を見込む)が、これまでの少雨の状況を解消するかどうかは難しいとみている。

(湿った空気の流れ込みが強まれば、これよりも降水量は多くなる。最新の予報に留意)

少雨に関する気象情報 (2/17発表)



東北太平洋側、関東甲信地方、東海地方、近畿地方、中国地方（山陽）、四国地方、**九州北部地方（山口県を含む）**、九州南部で少雨の注意呼びかけ

発表状況
 第1号：昨年12/15発表
 第2号：1/22発表
 第3号：2/17発表

少雨に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報 第3号 令和8年2月17日11時02分 福岡管区気象台発表

（見出し）

山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び大分県では、昨年10月中旬から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、今後も1か月程度は続く見込みです。農作物や水の管理等に十分注意してください。記録的な少雨になった令和7年には、冬から春にかけて大規模な林野火災が全国的に多く発生しました。**火の取り扱いに十分注意**してください。

（本文）

山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び大分県では、昨年10月中旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いています。**九州北部地方の本年1月の降水量** 平年比は17%となり、1946年の統計開始以降1月として1位の少雨となりました。

今後も1か月程度は低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続き、これまでの少雨の状態を解消するには至らない見込みです。

農作物や水の管理等に十分注意してください。記録的な少雨になった令和7年には、冬から春にかけて大規模な林野火災が全国的に多く発生しました。**火の取り扱いに十分注意**してください。

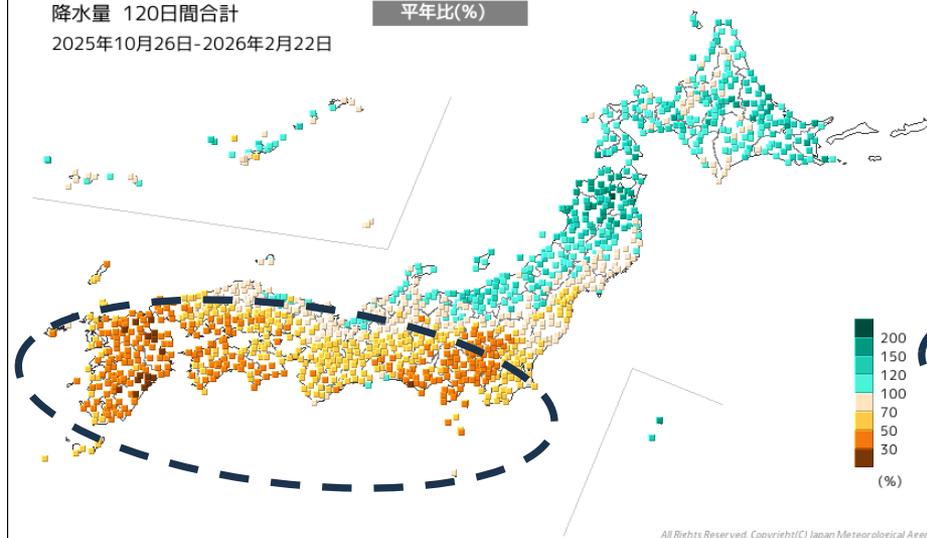
（略）

少雨の状況（前120日間、90日間）

降水量 120日間合計

2025年10月26日 - 2026年2月22日

平年比(%)

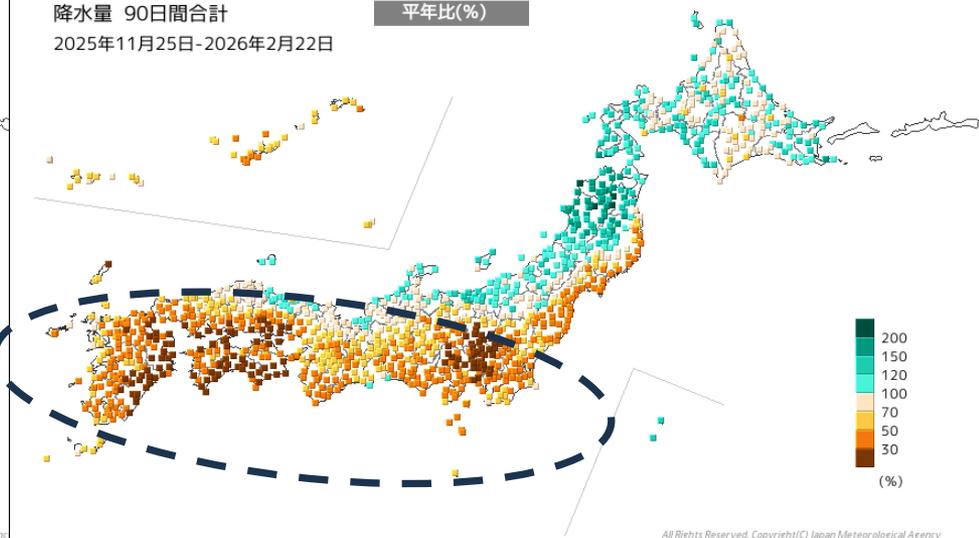


All Rights Reserved. Copyright(C) Japan Meteorological Agency

降水量 90日間合計

2025年11月25日 - 2026年2月22日

平年比(%)



All Rights Reserved. Copyright(C) Japan Meteorological Agency

北・東日本太平洋側・西日本中心に少雨

九州北部地方（山口県を含む）では、昨年10月中旬から低気圧の影響を受けにくく、降水量の少ない状態が続いている。九州北部地方の本年1月の降水量平年比は17%となり、1946年の統計開始以降1月として1位の少雨となった。九州北部地方は、2月も23日時点でかなり少ない（平年比46%）。

（2/23時点、冬の降水量は平年比48%とかなり少なく、少ないほうからの3位。

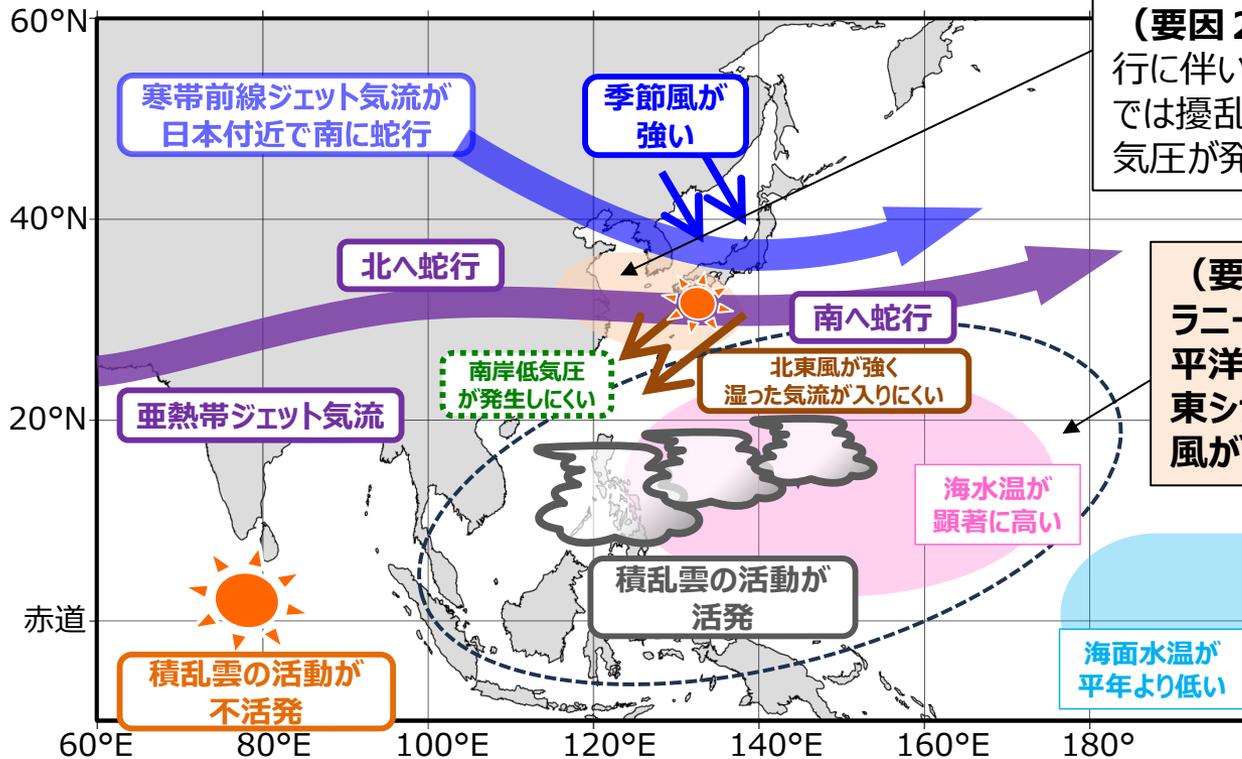
1位は2025年と1999年の平年比46%）

気象庁ホームページ > 各種データ・資料 > 最新の気象データ > 天候の状況 でご確認いただけます。

URI : <https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/tenkou/indexTenkou.html>

少雨の要因 (1月) (2月もこの状態に近い)

- ✓ 少雨の要因は、フィリピン東方海上で海面水温がかなり高く（ラニーニャ現象に近い海面水温分布）、積乱雲の活動が活発となり、その活発域に向かって吹く北東風が平年より強かったこと、また、大陸からの季節風が強かったため、東シナ海～日本の南で、南よりの暖かく湿った空気が流れ込みにくく、西日本付近を通る低気圧や気圧の谷（南岸低気圧等）が発生しにくかったことが挙げられます（上空の偏西風の流れにより、西日本付近では下降流となり低気圧が発生しにくかったことも要因）。

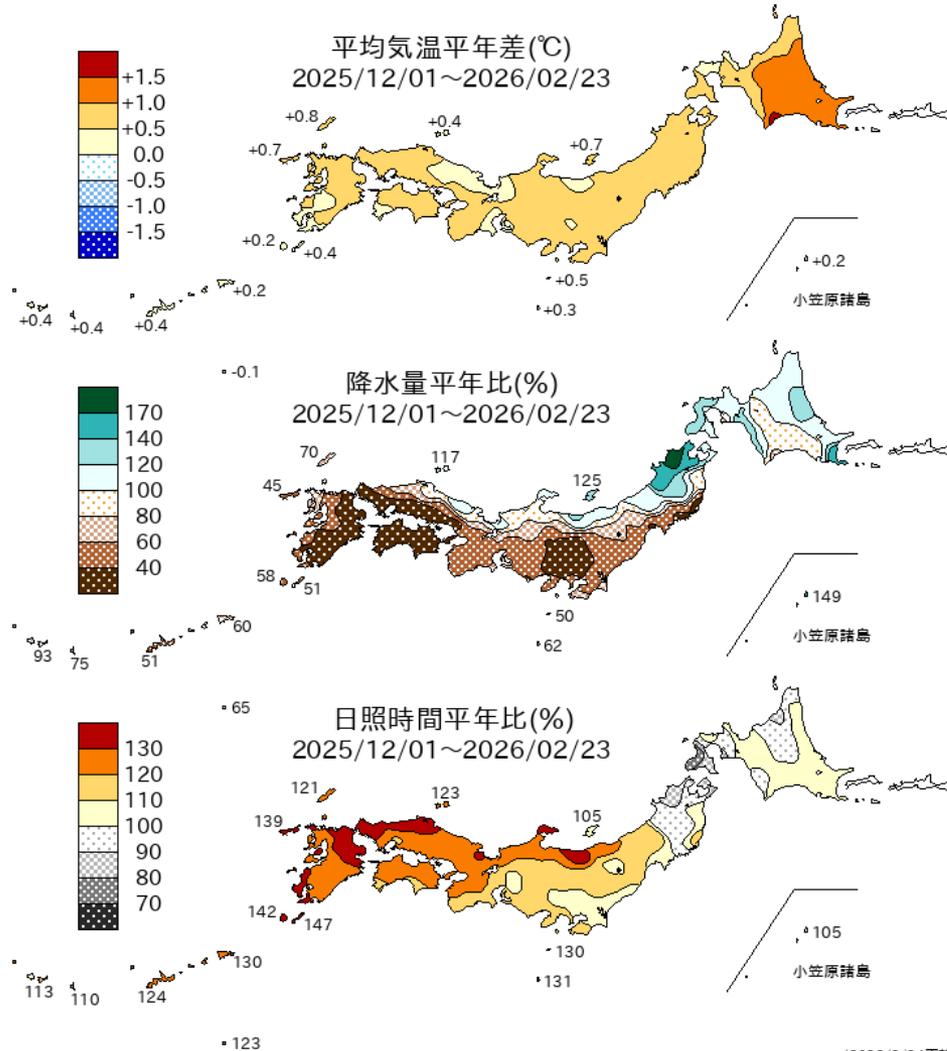


(要因2) 日本付近での偏西風の南への蛇行に伴い、下降流域が南偏。中国南東部付近では擾乱が発達しにくい環境場となり、南岸低気圧が発生しにくい状態。

(要因1) 主要因
ラニーニャ現象に近い海面水温分布（太平洋赤道域中部の暖水が西進）で、東シナ海～日本の南で平年よりも北東の風が強く、低気圧が発生しにくい。

- 他の要因
- ✓ 華南～東シナ海の下層の南北温度勾配が小さく、低気圧が発生しにくかった。
 - ✓ 日本付近での偏西風の南への蛇行は、ヨーロッパから連なる波列の影響。

冬の天候 (2/23まで)



九州北部地方 (山口県を含む)

平均気温平年差 **+0.7°C**
(高い)

降水量平年比 **48%**
(かなり少ない)

【暫定】1946年の統計開始以降
少ない方からの3位
(少ない方からの1位: 2025年、1999年 (46%))

日照時間平年比 **131%**
(かなり多い)

【暫定】1946年の統計開始以降
多い方からの1位

(2026/2/24更新)

All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency